

第二十一回 上田城跡能 平成二十九年八月二十六日(土)

長野県上田市 サントミュージーゼ(上田市交流文化芸術センター) 大ホール

能楽講座 午前十一時三十分〜十二時十五分 観世喜正

本公演 午後二時三十分開演(十二時四十五分開場)

《解説》佐久間二郎

観世流 能 シテ(都の女) 観世 喜正

鉄輪 ワキ(安倍晴明) 大日方 寛

ワキツレ(都の男) 野口 能弘

間(貴船の社人) 野村太一郎

後見 永島 充  
小玉 三郎

地謡

吉澤 晃一 遠藤 和久  
宇都宮 公 駒瀬 直也  
中森健之介 弘田 裕一  
奥川 恒治 中森 貫太

《休憩十分》

和泉流 狂言

悪太郎 シテ(悪太郎) 野村 萬斎

アド(伯父) 石田 幸雄  
小アド(僧) 中村 修一

後見 月崎 晴夫

兼平 岡本 房雄

地謡

仕舞 鶏之段 観世 喜之  
小島 英明  
駒瀬 直也  
観世 喜正  
中森 貫太

《休憩十五分》

子方(安徳天皇) 観世 和歌

ツレ(天納言局) 佐久間二郎

ツレ(二位尼) 小玉 三郎

前シテ(老人) 永島 充  
後シテ(平知盛)

碓 潜 ワキ(旅僧) 則久 英志

船出之習

間(里人) 中村 修一

奥川 恒治

後見 観世 喜之

遠藤 和久

大鼓 亀井 広忠 太鼓 大川 典良  
小鼓 観世新九郎 笛 八反田智子

高橋 康子 駒瀬 直也

地謡

中森健之介 岡本 房雄  
小島 英明 観世 喜正  
中森 貫太 弘田 裕一

(午後四時五十分 終了予定)

あらすじ

能『鉄輪』(かなわ)

所は京の都の北辺、鞍馬山の麓の貴船神社。自分を棄て、新しき妻を娶った夫に復讐すべく、鬼になりたいとの願をかけ、丑の刻参りに通う女がいる。「鉄輪台に火を灯し、赤き衣を着て、怒る心を持つならば鬼となれよう」との神のお告げが女に下る。

一方夢見の悪い夫は、高名な陰陽師・安倍晴明に祈祷を頼む。鬼と化した先妻は、晴明の張った結界を破れるのか？ 男女の仲、丑の刻参り、陰陽師の活躍など、お馴染みの演目です。

狂言『悪太郎』(あくたろう)

大酒飲みの荒くれ者・悪太郎は、今日も酒に酔って酔い潰れる。困った伯父は、寝込んだ悪太郎を出家の姿にしてみよう。そこに通りかかった僧侶が念仏を唱えるとき、憎めない酔っぱらい悪太郎を、野村萬斎が演じます。

能『碓潜』(いかりかづき)

本州と九州を分ける海峡・早瀬の瀬戸(関門海峡)。旅の僧は渡し舟に乗り九州へ渡ろうとする。源平合戦における、能登守教経の奮戦を語る船頭の話しを聞き、海辺で一晩寝をする僧の前に、巨大な御座船が浮かび上がる。船中には二位の尼、幼帝・安徳天皇、中納言平知盛らの幽霊がおり、壇之浦合戦で海の藻屑と滅び去った平家一門の無念を語る。

そして平家の最期を見届けた知盛が、船の碓を身体に巻きつけ入水して果てる場面を勇壮に再現してみせる。能「船弁慶」や浄瑠璃・歌舞伎の「義経千本桜」の元となったとされる「碓潜」を、長野県出身の永島充が初演いたします。

演者



のむら まんさい  
野村 萬斎



ながしま みつる  
永島 充



かんぜ よしまさ  
観世 喜正



かんぜ よしゆき  
観世 喜之